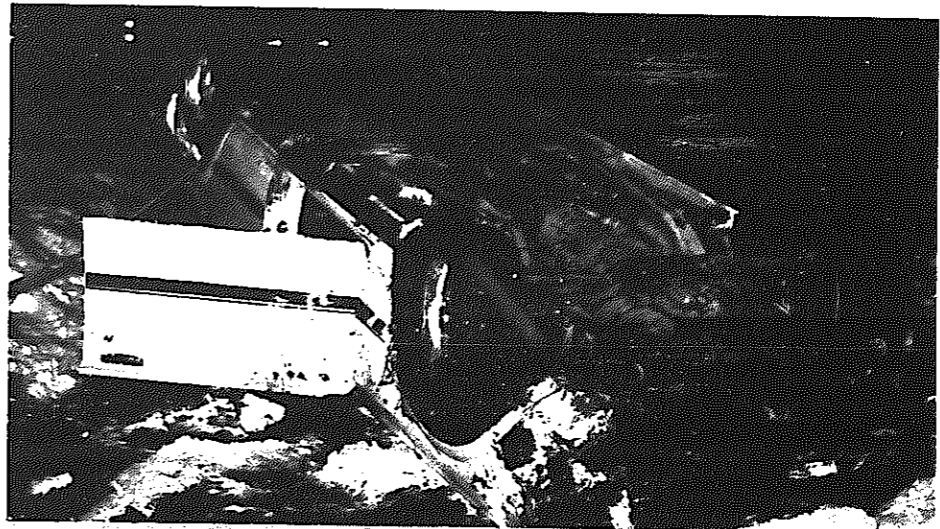
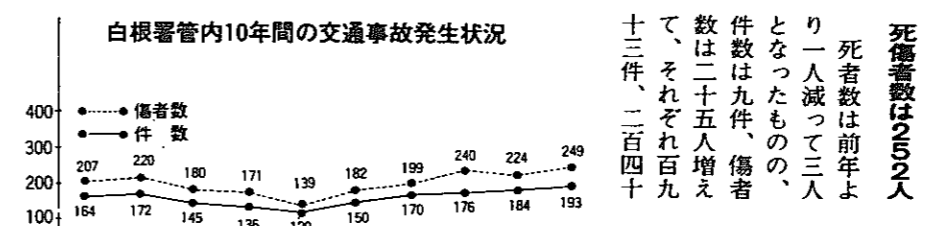


# 件数、死傷者数とも最高

## 安全確認で事故防止を



昭和61年中の白根警察署管内（白根市、味方村、月洞村）の「交通事故のすがた」がまとめられました。それによると、死者数は3人に減っていますが、事故件数では193件、傷者数では249人と、いずれもこの10年間で最高を記録しました。また、県警交通企画課がまとめた「61年中の飲酒運転による交通事故の実態」によると、免許人口10万人当たりの居住地別発生件数では、本市が61.5件と昨年の2位から1位へと逆転し、同じく居住地別飲酒運転検挙件数でも、五泉市に次いで2位になるなど不名誉な結果となりました。事故に結びつく、①飲酒運転 ②スピードの出し過ぎ ③無免許運転 ④信号無視 ⑤無理な追い越し ⑥歩行者妨害 ⑦一時不停止——などの交通七悪を追究し、「1人1人が事故に遭わないよう気をつけ、不名誉な記録を返上したいものです。」



死者数は前年より一人減って三人となったものの、件数は九件、傷者数は二十五人増えて、それぞれ百九十三件、二百四十九人と最悪の状態となりました。傷者数の中には運よく一命は取り留めたものの、まかり間違うと死亡事故につながったという「きわどいもの」も数人含まれています。大きな事故に結びつく、①飲酒運転 ②スピードの出し過ぎ ③無免許運転——という交通三悪を含む。前述の交通七悪追放のため家庭で、職場で、地域で、あらゆる機会をとらえ、お互いに交通安全思想の普及に努めなければなりません。

**月別では8月がトップ**  
事故発生件数を月別に見ると、最高は八月の二十五件で、次いで十二月の二十三件、十月の二十二件、九月の二十件、七月の十八件、四月の十六件と続き、帰省客などで交通量が増大する八月が最も多くなっていますが、年間を通すと七月以降の下半期に多発していることがわかります。

**曜日別では火曜がトップ**  
さらに、発生件数を曜日別に見ると、火曜日が三十二件でトップ、次いで土曜日三十一件、月曜日三十件、

日曜日二十九件、木曜日二十七件、金曜日二十三件、水曜日二十一件と続き、火曜日が全体の一六・五%と最も多く、週末から週明けの火曜日までに多く発生していることがわかります。

**3件の死亡事故は、午後4時から6時に集中**  
時間別の発生状況を見ると、午後四時から午後六時までは三十九件でトップ、次いで午後六時から八時までは二十四件、午前六時から八時までは二十三件、午前十時から正午までは二十二件、正午から二時までは二十一件と、相変わらず夕方方のラッシュ時の午後四時から六時まではトップとなっています。また、六十一年中に発生した三件の死亡事故はすべてこの時間帯に発生していますので、運転者、歩行者などすべての人が、夕方には特に注意したいものです。

**20歳から24歳がトップ**  
事故を起こした第一当事者を年齢別に見ると、二十歳から二十四歳までがトップで三十六人、次いで十五歳から十九歳までが三十三人、二十五歳から二十九歳までが二十三人、三十五歳から三十九歳までが二十人、四十歳から四十四歳までが十五人と続き、十五歳から二十四歳までを合わせると六十九人となり、全体の三五・六%を占めています。最近、高齢者による事故も徐々に増えていることですが、

反則大別	件数		反則大別	件数	
	60年	61年		60年	61年
速度25K以下	2,124	1,454	一時停止	256	188
積載重量	5	8	灯		1
信号無視	98	60	合図不履行		
通行区分	84	57	定員外乗車	43	39
追越	4	3	駐停車	72	64
踏切	12	4	安全運転	45	76
歩行者妨害	1	1	不携帯	186	211
整備不良	20	11	その他	72	175
通行禁止制限	24	11	合計	3,046	2,363

違反大別	件数	
	60年	61年
無免許	28	33
酒酔い	7	4
酒おび	39	52
速度25K以上	171	162
合計	245	251

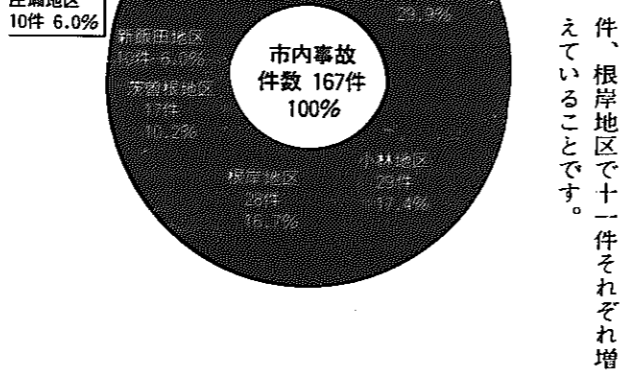
に増えており、六十歳以上の第一当事者も十三人で六位になりました。十分気をつけてください。

**確認動作不十分が32件**  
発生状況を原因別に見ると、四輪、二輪では ①確認動作不十分三十二件 ②ぼんやりしていた十九件 ③車や歩行者がいらないと思つた十五件 ④その他の前方不注意十二件となっており、自転車では ①危険でないと思つた七件 ②車や歩行者がいらないと思つた二件、人では①車両の直前、直後の横断七件 ②飛び出し四件——などが主な原因としてあげられます。このように、わき見運転や考え

事しながら運転したり、前後左右の安全確認を怠つたりする基本的な運転ミスによる事故が増加していますので、安全確認に心がけてください。

**地区別では小林根岸が増える**  
事故発生件数を地区別に見ると白根が五十件（二九・九%）、小林二十九件（一七・四%）、根岸二十八件（一六・七%）、茨曾根十七件（一〇・二%）、新飯田、庄瀬各十件（六・〇%）、臼井、鷲巻各九件（五・四%）、大郷五件（三・〇%）となっています。特徴的なことは、国道8号線で

前年より五件増えていること、宅地開発が進んでいる小林地区で九



### 県内飲酒事故の実態

## 53年道交法改正以来の多発 少しの我慢で事故は防げます

県警交通企画課がまとめた「飲酒運転による交通事故の実態」によると、県内で発生した飲酒運転による事故は、前年比で死者数が五人減の十九人となったものの、発生件数では九十一件増の三百八十件で、傷者数も百七人増の五百二人となりました。

この状況は昭和五十三年に「酒酔い運転、免許一発取り消し」を柱とする道路交通法改正以来の

多発となっています。事故の内容を見ると、「酒を飲んで自損事故を起こし、自ら死傷するケース」が約半数を占め、自損事故以外では正面衝突、追突が高率を占めています。飲酒運転の理由では「取り締まりに合わないと思つた」が約半数を占め、次いで「翌日の出勤に困る」、「少ししか飲まなかった」「酔いをさました」となっています。

**飲酒理由「飲みたくて」**  
飲酒理由は、飲みたくてが百四十四件（三七・九%）と最も多く、次いで友達つきあい八十九件（二二・四%）、冠婚葬祭二十九件（七・

**20〜30歳代が半数以上**  
飲酒運転による事故件数を年齢別に見ると、二十歳代が百八件と圧倒的に多く、次いで三十歳代が九十一件、四十歳代が六十五件と続き、二十歳代と三十歳代を合わせると五五%にもなります。また死者数でも、二十歳代が九人、三十歳代が四人となっており、合わせると六八%にもなり、若者が高率を占めています。一方、六十歳以上の高齢者による事故件数と死者数も、三十六件、四人といずれも目立ってきました。

免許人口十万人当たりの居住地別発生件数では、本市が六十一・五件となり、昨年の二位から一位へ逆転、二十市中ワースト一位となりました。また、同じく居住地別飲酒運転検挙件数でも、五泉市に次いで二位となり、昨年の三位を突破しました。

不名誉なこの実態に認識を新たにし、「運転するなら飲まない、飲ませない」を励行し、飲酒運転の追放に努めたいものです。